

# 平成27年度公共事業再評価

## 道路課

### 平成27年度公共事業再評価諮問地区一覧表

No.	事業名	事業箇所 (地区名)	事業 年度	進捗率 平成21年度 平成26年度	対応 方針
1	道路改良事業	国道444号 (佐賀福富道路)	H13~H34	26% 49%	継続
2	道路整備交付金事業 (防災・安全社会資本整備交付金)	相知山内線 (武内)	H13~H32	38% 54%	継続
3	道路整備交付金事業 (防災・安全社会資本整備交付金)	国道204号 (湊)	H18~H30	- 75%	継続
4	道路整備交付金事業 (社会資本整備総合交付金)	中津天建寺武島線 (天建寺)	H18~H29	- 71%	継続
5	道路整備交付金事業 (社会資本整備総合交付金)	松尾湯の原線 (小副川)	H18~H30	- 77%	継続

## 道路事業のB/Cの考え方

### 費用対効果 B/C

- 総便益(B)：道路整備によりもたらされる総便益額  
(内訳)
  - ・走行時間短縮便益  
= 車両1台当たりの時間価値 × 短縮時間 × 交通量
  - ・走行経費減少便益  
= 道路整備による走行経費の減少 × 走行距離 × 交通量
  - ・交通事故減少便益  
= 道路整備による人身事故件数の減少 × 人身事故一件当たり平均損失額  
(人的損失額、物的損失額、渋滞損失額)
- 総費用(C)：道路整備及び維持管理に要する総費用  
(内訳)
  - ・事業費
  - ・維持管理費
- 費用便益比：総便益(B) / 総費用(C)

※便益と維持管理費は、供用開始後50年間で算定

## 費用便益分析におけるマニュアル等

### 将来交通需要推計手法

便益算出に使用する将来交通量の推計手法の見直し(国土交通省)

- 将来人口・経済成長の設定を各分野で統一
- 生成・発生・分布・分担交通量推計モデル統合



将来交通量の変化と、それに伴う便益の変化が生じている

### 費用便益分析マニュアル

- 現在価値算出のための社会的割引率：4%
- 基準年次：評価時点
- 便益、費用の検討年数：50年